

スリランカの漁村から

平和をつくり出す人々



2004年の大津波や26年におよんだ内戦の終結などを経て、今、人々はどんな課題をかかえ、どのように乗り越えようとしているのでしょうか？

日本以上に多文化、多宗教のスリランカで、人びとが自信をつけ貧困を克服し、立場が異なる人たちの間で理解と協働を生み出そうと取り組んでいる二人がやってきます。

マスコミやネットからでは伝わってこない人びとの声に聴いてみませんか？

報告会日程

※日本語通訳あり

2019年 **12月4日** (水) 13:30~15:30

会場: **北名古屋市コミュニティセンターホール**

北名古屋市西之保清水田15 北名古屋市役所西庁舎3F

主催: **北名古屋市国際交流協会**
アジア保健研修所(AHI)

参加費: **無料**

申込方法

右のQRコード、もしくはメールや電話でお申込みください。その際、お名前と参加希望日時(開催場所)をお知らせください。

本事業は、一般財団法人大竹財団の助成金を受けて実施しています。



講師 フランシス・プリヤンカラ

住民の参加と意思に基づく地方自治をテーマとしたNGO「スリランカ全国漁民連合(NAFSO)」のシニアスタッフ。内戦終了後のスリランカにおける和解のための人づくり・ワークショップ等を進めてきた。

2019年4月の同時爆発事件以降の平和の取り組みも始めている。

講師 スランジ・ワサナ

ハンウェア女性組合の創立者。生計向上活動、行政と連携した住宅建設プログラムを実施。共助のため子どもグループ活動も始めた。NAFSOの研修によって、リーダーとなり、それが実施する全国の漁民の権利を守る運動に協力している。



講師の活動拠点「ニゴンボ」

スリランカの西海岸に位置する漁業が盛んな都市。人口は約13万人。2019年4月の事件では、教会が爆破され、少数派キリスト教徒100名以上が犠牲になった。

